

わんわんレポート

令和3年10・11月号 No.400



Copyright (C) 2010 Mari Torigoe.

おかげさまで、わんわんレポート
400号に突入！！



アニマモール
川崎市動物愛護センター ANIMAMALL かわさき
川崎市中原区上平間1700番地8
電話 044-589-7137

8月17日、ついにトニーが譲渡されました！！

平成30年に収容されたMix犬のトニーが譲渡されました。トニーは、人のことが好きでお散歩も大好きですが、一方で繊細な一面もあり、譲渡に至るまでには様々な努力がありました。

今年4月、「トニーの飼い主になりたい」と今の飼い主さんからお声かけがあり、そこから約2か月半、毎週のようにセンターに足をお運びいただき、ボランティアのドッグトレーナーさんに見守っていただきながら、おやつをあげたり、一緒にお散歩に行ったり、トニーのペースに合わせて少しずつお見合いを重ねました。7月からいよいよトライアル（飼い主さんのおうちでお泊り）が開始。トニーの様子について飼い主さんと日記のやり取りをし、行動学専門獣医師のアドバイスもいただきながら、様々な問題をクリアしました。そして8月17日、初めてのお見合いから約4か月、ついにトニーが新しい飼い主さんのもとに譲渡されました！

現在、センターに収容されている犬は、緊張しやすい性格や吠え癖のため、一般のご家庭で飼うことが難しい子が多く、すぐには飼い主さんが決まりづらいのが現状です。しかし日々センターの動物たちのことを気にかけてくださる方々、動物たちの性質を理解し、温かく見守ってくださる希望者様のおかげで、少しずつ譲渡に向けて前進しています。また、犬たちも新しい飼い主さんと一緒に生活するために、自分たちのペースで頑張っています。

これからもどうぞ応援よろしくお願いします。



飼い主さんとおでかけを楽しむトニー

温かく見守ってくださる飼い主さん募集中!

シロ



ラルフ



のぶただ
信忠

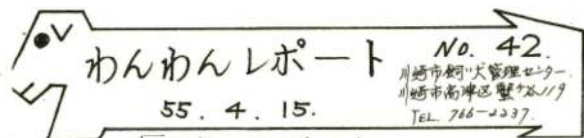


ごんた



※譲渡には条件があります。詳しくは、動物愛護センターにお電話でお問合わせください。

～わんレポで振り返る川崎市の動物愛護の歩み～



毎年、春の犬の登録と予防注射が揃えば、センターに引き取られる犬が増える傾向が見られます。無責任な飼い主も、この時期には、犬の飼育に力をつけているのではないのでしょうか。飼った以上は愛情をもって、病気で死ぬまで守ってあげることが、飼い主の責務といえるでしょう。後始末もできず、飼い主に、いきなり命をあげたは責任はないと思います。

人間に一方的に飼われ、あげた餌で捨てる、飼えなくなったからといって人工的に野放しされ、街中を徘徊する「成れの果て」となる不幸な犬も後下りしてきました。この場事故の後には、本来必要でない「預養処分」が捨てられた、飼い主の無責任の後始末のために、くりかえされてくるのが現状です。

動物愛護という言葉が、いまよりしている一部の心なりの飼い主の反省をうながす必要があると思います。

課題



ふれあい犬「おかちゃん」が引退しました。

おかちゃんがセンターに来て6年。ふれあい犬として、今までセンター職員と一緒に働いてきてくれましたが、平成17年9月末日をもって、ふれあい犬を引退しました。ふれあい教室のために小学校へ出かけるときなどは、自ら進んで車に乗り込み、小さい子もみくちやにされてもじっと我慢している働き者でした。現在は、新しい家族の一員としてのんびり暮らしております。新しい飼い主の方からの情報により、センターでの定食からかなりグレードアップした食事に加えてヨーグルトが大好きとのことです。また、後輩のふれあい犬ダンボやロクには「くれぐれもよろしく。」とのことでした。

おかちゃん、くれぐれも太りすぎには気をつけてね。

わんわんレポートは、今回で400号を迎えました。わんわんレポートの歴史はとても長く、旧センターが「飼い犬管理センター」として開設された時代、昭和50年から続いています。当時は、すべて手書きで作成していました。わんわんレポートのバックナンバーでは、さまざまな時代の動物愛護について知ることができます。

発行をスタートしたころから本紙では動物の終生飼養について訴えています。当時の状況は現在よりもかなりひどく、多くの動物たちが捨てられて、野良化している状況だったようです。文面には、無責任な飼い主に対してこみ上げる職員の激しい怒りが現れています。

また、長い歴史の中では、飼い主とペットの関係性だけではなく、センターと動物たちとの関わり方も変化しました。その1つが「ふれあい犬」の廃止です。以前は、動物愛護教室のたびに「ふれあい犬」を学校に連れて行っていましたが、動物たちのストレスを考え、現在では、生体を使った動物介在教育というものは行っていません。代わりに、「いのち・MIRAI教室」として、収容動物の写真を使用して動物の気持ちについて考えたり、実体験にまつわる紙芝居をしたり、張り子の動物を使ったりして、いのちについて考える教育を行っています。

法律の改正や世の中の動物愛護の気風が高まったことにより、動物を取り巻く環境は少しずつ改善されていますが、まだまだ解決されない問題も多くあります。現状に満足することなく、一人一人がそれぞれの立場で、動物たちのためにできることを行い、よりよいまちをつくりましょう。

動物慰霊祭のご報告

9月21日（火）、動物愛護センター内のNITTOKU適正飼育啓発室において、動物慰霊祭を執り行いました。今年も昨年と同様に、新型コロナウイルス感染症対策のため動物愛護センター関係職員のみで式典を執り行いました。

令和2年度に、動物愛護センター及び川崎市健康安全研究所で命を終えることとなった動物種及びその数の報告を行い、所長から式辞が読み上げられ、参列者代表による献花が行われた後、全員で黙とうを捧げ、しめやかに式典を終えました。

亡くなった動物たちへの思いを決して忘れることなく、今後も動物たちのために日々の業務を誠心誠意行ってまいりたいと思います。



新型コロナウイルス感染症関連情報

ペットを飼っている方、ペット関連事業者の方へ環境省のページにリンク



預かり支援団体などの連絡先について環境省のページにリンク



動物を飼養する方向けQ&A厚生労働省のページにリンク

